

京都大学	博士（医学）	氏名	當山まゆみ
論文題目	Non-motor symptoms depending on motor severity in Japanese patients with Parkinson's disease: A multicenter cross-sectional study (日本人パーキンソン病患者における非運動症状と運動症状の関連:多施設横断研究)		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>パーキンソン病患者の診断や重症度分類は主に運動症状を中心に行われてきた。近年、非運動症状はパーキンソン病患者の Quality of Life の低下に与える影響が大きいとの報告から注目され、非運動症状への適切なアプローチが重要とされている。しかし非運動症状は主観的で、医療者は患者の症状を把握するための問診や質問紙を利用するなどの取り組みが必要となり、臨床現場で見過ごされることが多いことも指摘されている。</p> <p>多くの研究で非運動症状の有無や症状の悪化と運動症状の重症度との関連が示唆されている。一方、非運動症状は年齢・性別・罹病期間など運動症状以外の要因との関連も報告されているものの、非運動症状と運動症状の関連について他の要因が考慮されていない研究も多い。本研究ではパーキンソン病患者の非運動症状の有無は運動症状の重症度に依存しているのかを明らかにするため、非運動症状に関連する他の要因を加味した分析を行った。</p> <p>日本の7施設が参加したパーキンソン病患者レジストリーに登録された患者のうちDeep Brain Stimulationを受けた患者を除いた1037人を対象とした。非運動症状の有無を目的変数、運動症状の重症度 (Hoehn &amp; Yahr stage : HY stage) を説明変数とし、非運動症状に影響すると考えられている要因 (年齢、性別、罹病期間、ウェアリングオフの有無、ジスキネジアの有無、臨床サブタイプ [振戦優位、中間、姿勢反射障害・歩行障害]、レドバ換算用量相当量) を調整変数としたロジスティック回帰分析を行った。非運動症状の有無についてはNon-motor symptoms Scale (NMSS) を使用した。</p> <p>NMSS のドメイン別の解析では D1 (心血管系)、D2 (睡眠/疲労感)、D3 (気分/認知)、D4 (知覚障害/幻覚)、D5 (注意/記憶)、D6 (消化器系) において非運動症状ありと運動症状の重症度に関連がみられた (Odds Ratios [ORs]: 1.54-2.72, いずれも P&lt;0.05)。しかし D7 (排尿)、D8 (性機能) の症状ありと運動症状の重症度との関連は見られなかった。NMSS のアイテム別の解析では Item 2 (失神) と Item 14 (妄想) の症状ありと運動症状の重症群 (HY stage 4-5) に強い関連がみられた (ORs: 9.95 と 5.92, P&lt;0.05)。</p> <p>運動症状の重症度に関連が見られた非運動症状に関しては、運動症状の重症度は非運動症状の存在を予測する指標になるだろう。また運動症状の重症度と関連が見られなかった症状に関しては、より影響を及ぼす可能性のある他の要因の検討が必要である。これらの結果はパーキンソン病患者の非運動症状に対する病態の理解や、臨床現場での非運動症状に対する取り組みを改善する一助となるだろう。</p>			

<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>パーキンソン病 (PD) 患者の非運動症状 (NMS) の有無は運動症状 (MS) の重症度に関連しているのかを明らかにするため、NMSに関連する他の要因を調整した分析を行い検討を行った。</p> <p>日本のPD患者レジストリーに登録された1037人を対象とし、NMSの有無を目的変数、MSの重症度 (Hoehn &amp; Yahr stage : HY stage) を説明変数、NMSに関連する要因 (年齢、性別、罹病期間、ウェアリングオフの有無、ジスキネジアの有無、臨床サブタイプ [振戦優位、中間、姿勢反射障害・歩行障害]、レドバ換算用量相当量) を調整変数としたロジスティック回帰分析を行った。NMSの有無は、Non-motor symptoms Scale (NMSS) を使用した。</p> <p>NMSS の9ドメインでは、心血管系、睡眠/疲労、気分/無関心、知覚上の問題/幻覚、注意/記憶、消化器系で関連があり、泌尿器系、性機能障害では関連がなかった。NMSS の30アイテムでは、失神と妄想でMSの最重症群 (HY stage 4-5) と強い関連がみられた。</p> <p>MSの重症度との関連が示唆されたNMSは、MSの重症度がNMSの存在を推定する指標となる。また関連が見られなかったNMSはより影響を及ぼす可能性のある他の要因の検討も必要である。</p> <p>これらの結果は、臨床でのPD患者のNMSへの取り組みや、研究でのNMSに対する病態の理解に寄与するところが多い。</p> <p>したがって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、本学位授与申請者は、令和2年12月1日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。</p>
<p>要旨公開可能日：                      年           月           日 以降</p>